

厳しい寒さの日が続きますが、寒さを超えると花粉症の方にはつらい季節がやってきます。今回は**アレルギー性鼻炎**についてです。**花粉症**はアレルギー性鼻炎の代表例ですが、花粉以外が原因のアレルギー性鼻炎もあります。



➤ アレルギー性鼻炎とは

人の鼻では、侵入してきた特定の**物質（抗原）**を自分以外の物質（異物）と判断すると、それを**無害化しようとする反応（抗原抗体反応）**が起こります。その結果、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどの症状が出てくる病気を**アレルギー性鼻炎**と言います。

アレルギー性鼻炎は決まった季節だけに鼻の症状がおきる**季節性アレルギー性鼻炎**と、一年を通じておきる**通年性アレルギー性鼻炎**に分けられ、花粉症は季節性アレルギー性鼻炎の代表的な病気です。ただし、花粉症では鼻炎の他にも、結膜炎や咽頭炎など鼻以外のアレルギー性炎症もおこります。

● 花粉症の原因

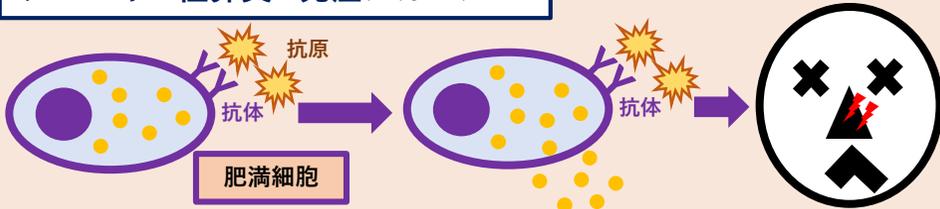
花粉症の約70%はスギ花粉症だと推察されます。これは日本の国土に占めるスギ林の面積が大きく、全国の森林の18%、国土の12%を占めているためでもあります。しかし、北海道ではスギ花粉飛散は極めて少なく、沖縄にはスギが全く生息しません。地域によって多い花粉や飛散時期は異なります。

➤ 花粉症はどうして起こるのか？

感作 抗原が鼻に入ると、身体の中に抗体（IgE抗体）がつけられ、これが鼻の粘膜の肥満細胞というアレルギーを起こす細胞について感作が成立します。スギ花粉やダニでは約50%の人が感作されています。

発症 感作された人の約50%に**症状が発現**し、それを**発症**といいます。どのような人が発症するかについては、患者さんの内的因子（遺伝的素因）や外的因子（大気汚染や花粉飛散量など）が考えられますが、はっきりと証明されたものは現在のところありません。

アレルギー性鼻炎の発症メカニズム



① 抗原が体内に入り、肥満細胞の表面にある抗体と結合

② 活性化した肥満細胞からアレルギー誘発物質（ヒスタミン、ロイコトリエン等）が放出される

③ アレルギー誘発物質が、鼻炎症状を引き起こす

➤ 花粉症の治療について

● アレルゲンの除去・回避

鼻にアレルゲンが入らなければアレルギー反応はおきず、当然、アレルギー性鼻炎の症状もあらわれません。**室内・寝具の掃除、ペットの室内飼育の回避、花粉対策**などを行うととても効果的です。



● 薬物治療

□ ケミカルメディエーター遊離抑制薬

肥満細胞からの**ケミカルメディエーター（ヒスタミン、ロイコトリエンなどの化学伝達物質）**遊離を抑える薬です。

□ 抗ヒスタミン薬

ヒスタミンが神経に作用する受容体をブロックします。主にくしゃみ・鼻水に効果があります。

□ 抗ロイコトリエン薬、抗トロンボキサンA2薬

ロイコトリエン、トロンボキサンが作用する受容体をブロックします。また、**トロンボキサンの生成を抑えます**。鼻づまりに効果があります。

□ Th2サイトカイン阻害薬

IgE抗体をつくるものとの細胞（Th2リンパ球）に作用して、抗体をつくりにくくする効果があります。

□ ステロイド薬

点鼻薬と飲み薬があります。くしゃみ、鼻水、鼻づまりに効果があります。点鼻薬は定期的に使わないと効果が十分に発揮されません。ステロイド薬としての副作用はほとんどありません。飲み薬は抗ヒスタミン薬との合剤がよく用いられます。よく効く薬ですが、ステロイド薬としての副作用がありますので、**短期間（1～2週間を限度）**の使用にとどめます。

● アレルゲン免疫療法

アレルギーの原因である**アレルゲンを少量から投与**することで、体をアレルゲンに慣らし、長期にわたって症状をおさえたり、症状をやわらげたりできます。**アレルゲンを投与することから、服用後にアレルギー反応がおそれがあり、まれに強いアレルギー症状が発現するおそれがあり、医師・薬剤師の指示のもと適切に治療を進めていくことが重要です。**

★ アレルゲン免疫療法の特徴

- ・ アレルギーの原因であるアレルゲンのエキスをういて治療を行います。
- ・ 「**皮下免疫療法**」と「**舌下免疫療法**」の2種類があります。
- ・ 根本的な体質改善が期待できます。
- ・ 現在は、**ダニアレルギー性鼻炎、スギ花粉症**などに対して行われます。